

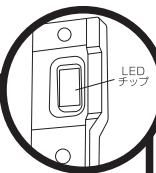
LED D4S/R HEADLIGHT

D4S・D4R交換用LEDヘッドライト

取扱説明書

注意事項

LEDチップに手を触れたり水気や油脂などの汚れを付着させると故障の原因となりますのでご注意ください。



はじめに

- 本製品は自動車専用です。自動車以外の用途で使用しないでください。
- 本製品はD4S・D4Rを使用したランプに装着することができますので、交換前に使用していたバルブの表示をご確認の上、間違いのないようご注意ください。
- 本製品は電動ファンを使用しているため、ファンの作動音が聞こえる場合があります。
- 本製品に交換した際、輸入車を含む一部車両では球切れ警告灯が点灯する場合があります。また、球切れなどを感知するためにスイッチを切った状態でも車両側が微弱電流を流しており、かすかに点灯してしまう場合がありますが、製品の不良ではありませんので、予めご了承ください。(この場合の消費する電流は微弱であるため、バッテリーの早期上がりが発生することはありません。)
- LEDはHIDバルブと発光方法が異なるため、同じ色温度でも異なった色に見える場合があり、灯具によっても発光色が変わることがあります。
- ヘッドライトとフォグランプで同じ色温度のバルブを装着しても異なった色に見える場合がありますが、製品の不良ではありませんので、予めご了承ください。
- 本製品は走行可能状態にしてから点灯させてください。アイドリングストップ機能を保有している車両やバッテリーが弱っている車両に使用した際、エンジン始動時に一瞬不点灯やチラツキなどの症状が発生する場合があります。
- 経年劣化などでリフレクターやレンズ表面が損耗している灯具に本製品を使用した際、製品本来の性能が充分發揮されず車検に通らない場合があります。その場合には元のバルブに交換してください。
- 本製品を点灯させた際、ラジオなどにノイズが入る場合がありますが、故障ではありませんのでご了承ください。ナビゲーションシステムやオーディオ機器のアースポイントを変更するなどで解消する場合があります。
- 自動ブレーキや前方衝突警告、アダプティブクルーズコントロールなどの自動運転機能、可変配光システムやオートハイビーム・衝突被害軽減システム・駐車支援システム・誤発進抑制制御システム・クリアランスソナー・車線逸脱防止システムなどのカメラ／ミリ波／紫外線／超音波などを使用した機能を有している場合は、純正バルブの使用を前提に設定や調整がされているため、本製品を装着することにより正常な動作が行えなくなる恐れがあります。当該機能の誤作動や不作動およびそれに生じた事故や損害については一切の責任を負いかねますのでご留意ください。
- 光軸は走行時のショック、タイヤの空気圧や車体重量の変化によりずれる場合がありますが、製品の故障ではありませんので適宜光軸調整を行ってください。
- 保安基準などの自動車関連法に抵触しないようにご使用ください。

取付上のご注意

本製品の取付けにあたり、誤った取付方法により、漏電や感電および製品の故障や車両火災の原因となるないよう、下記の点に注意して取付けを行ってください。

- 本製品の分解・改造は絶対に行わないでください。
- 本製品は精密な電子機器です。落下させたり、配線を引っ張ったり無理な力を加えないでください。端子に無理な力を加えると、端子折れや接触不良により加熱し、コネクター溶解などの破損の原因となります。
- 本製品を点灯させる際、紙や布で覆ったり、ガソリン、可燃性スプレー、シンナーなどの引火の危険性のある物の近くでは点灯させないでください。
- 本製品が破損した場合は、直ちに取付け作業を中止してください。
- 本製品の発光部(LEDチップや電子基板)に手を触れたり水気や油脂などの汚れを付着させた場合は、柔らかいきれいな布でしっかりと拭きとってください。汚れを付着させたまま点灯させると点灯不良の原因となります。
- 交換作業は平らな充分なスペースと安全を確保して行ってください。また、エンジンを停止させてキーを抜いてください。
- 交換したHIDバルブは大切に保管してください。

故障かな?と思ったら

不具合が起きた場合は弊社サイトのトラブルシューティングをご確認頂ければ製品保証を受ける際にスムーズに行えます。

以下のURLまたは右記のQRコードからアクセスできます。
<https://www.sphere-light.com/troubleshoot.html>



車検について

本製品は弊社が定める適合表記載の車種において保安基準第32条の項目を満たすことを確認しておりますが、下記の場合は車検が通らないことがあります。その際は元のバルブに交換するか、レンズの点検を行ってください。

- 測定器の備えがなく検査官の目視による判断を行っている場合。
- 経年劣化による灯具の損傷や、レンズの汚損がある場合。
- 新光源対応テスターを使用していない場合。

保安基準第32条の項目

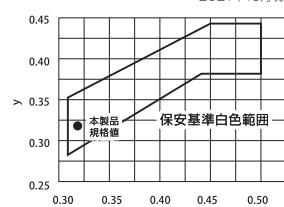
すれちがい用前照灯

- すれちがい用前照灯は、その照射光線が他の交通を妨げないもの、かつ、そのすべてを同時に照射したときに夜間にその前方40メートルの距離にある交通上の障害物を確認できる性能を有すること。

走行用前照灯

- 走行用前照灯の照射光線は、自動車の進行方向を正射するものであること。
- 走行用前照灯は、そのすべてを同時に照射したときに、夜間にその前方100メートルの距離にある交通上の障害物を確認できる性能を有すること。

保安基準に規定されている色度範囲
2021年10月現在



*本製品の発光色はJIS規格5500-1995の白色範囲内に位置しています。

ヘッドライトテスター測定時の注意事項

H10年9月1日以降の製作車はロービームで測定および調整を行ってください。*

H10年8月31日以前の製作車はハイビームで測定および調整を行ってください。

ヘッドライトテスターの仕様や設定により意図せず不適合となる場合があります。光度が低く測定される場合は、LEDやHIDのような新光源に対応していない場合があります。エルボーポイントや光度が採れない場合は、目視検査モードでの測定を行うことを推奨します。

*H10年9月1日以降の製作車でレンズの仕様によりロービームの測定が行えない場合があります。
その場合はハイビームでの測定および調整を行ってください。

取付方法

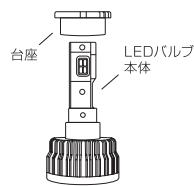
本製品を取付けの際、車種によってはランプユニットや補機類等を取外すと作業しやすくなる場合がありますので、必要に応じて部品の取外し作業を行ってください。

基本の取付方法

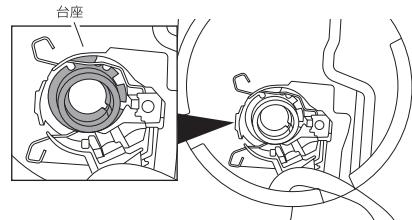
台座をLEDバルブから分割した状態で取付けする場合

1 車両の取扱説明書を参考にして本製品を取付ける箇所のバルブを取り外してください。

2 LEDバルブの台座は右図のように分割することができます。台座を抑えながらLEDバルブを反時計回りに動かし取外してください。

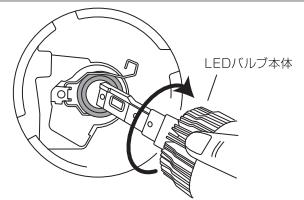


3 分割したLEDバルブの台座をヘッドライトユニットに取付け、車体側のバルブスプリングで固定します。

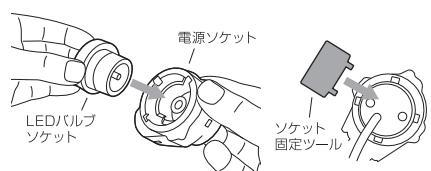


△ 重要

ここでヘッドライトユニットへ固定した台座にLEDバルブを差し込み、時計回りに動かして固定の確認をしてください。この時に車体側のバルブに干渉してLEDバルブを固定できない場合や、ヘッドライトユニット裏側のスペースが狭くLEDバルブを回転させられない場合は、本取扱説明書ページ右側の「台座をLEDバルブに設置した状態で取付けする場合」の手順で作業を行ってください。

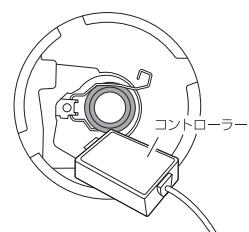


4 車体側の電源ソケットをLEDバルブソケットに差し込み、付属のソケット固定ツールを使用して時計回りに固定します。

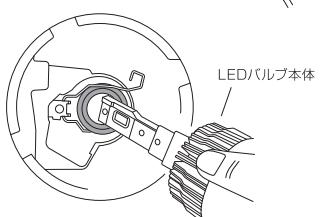


5 コントローラーと電源ソケットを、付属の両面テープを使用してヘッドライトユニット内に設置します。

(この時、光軸調整・レベライザ・AFSなどに影響のない位置へ設置してください。)



6 LEDバルブをヘッドライトユニットへ固定した台座に挿入し、2で分割した時の逆の手順で取付け固定して完成です。

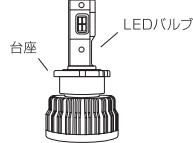


基本の取付方法が困難だった場合

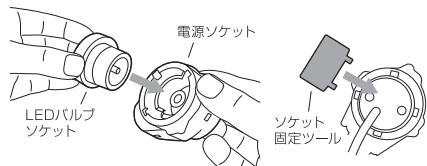
台座をLEDバルブに設置した状態で取付けする場合

1 車両の取扱説明書を参考にして本製品を取付ける箇所のバルブを取り外してください。

2 LEDバルブの台座は右図のようにLEDバルブと一緒に状態で作業を行います。

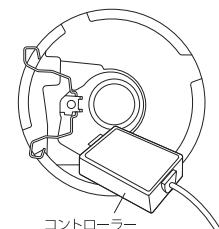


3 車体側の電源ソケットをLEDバルブソケットに差し込み、付属のソケット固定ツールを使用して時計回りに固定します。



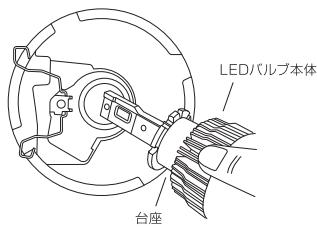
4 コントローラーと電源ソケットを、付属の両面テープを使用してヘッドライトユニット内に設置します。

(この時、光軸調整・レベライザ・AFSなどに影響のない位置へ設置してください。)



5 LEDバルブをヘッドライトユニットへ挿入し、車体側のバルブスプリングで固定して完成です。

(この時、バルブスプリングを歪まない程度に広げながら電動ファンをかわして台座部分を固定します。)



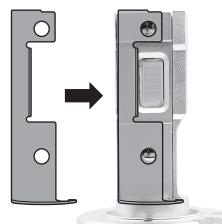
△ 注意

バルブ挿入時は、バルブ後方から出ている配線が下向きになるように挿入してください。

◎ ワンポイントアドバイス

コントローラーや電源ソケットがヘッドライトユニット内に収めにくい場合は、光軸を上下左右へ動かすことで隙間ができるため収めやすくなります。

D4S→D4Rへの仕様変更方法



シェードをかぶせるように設置します。



付属のビスで2箇所を固定します。